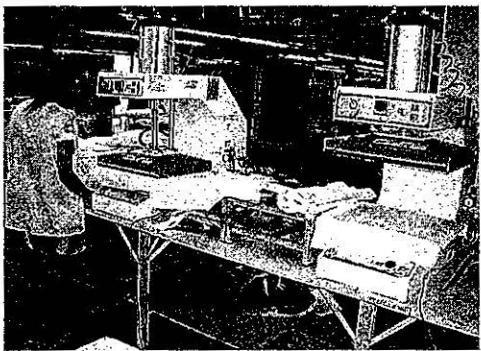


# 取り組み型生産を進める

## 蘇州マッコニー 加工工程を内製化



加工工程を内製化し納品スピードをアップ

の高級婦人服ブランド「吉芬」(JEF FEN)と同様の取り組みに着手している。

取り組み型ビジネスの進展に伴って、欧州などからの一括生地手配と、サンプル縫製機能の強化に取り組んできたが、これに続いてレーザーカット、シームレス、ブリーツ、刺繍などの加工機械を導入し、生地や製品の加工で必要なものは、外注から自社内加工へと切り替えた。

「1カ月で1000点というサンプル数の急増に合わせて、加工工程の内製化で納品スピード

を早める」のが狙いだ。

さらにこの3年間で、本社縫製工場を15ラインから12ラインへ、縫製ワーカー800人を500人に縮小した。一方で外注先工場を拡大。現在は蘇州地区中心に15社をネットワークしている。生産能力は月産8万〜10万点を維持している。

「取り組み型拡大に伴って開発や加工部門、貿易などの縫製以外の人員が増えている。このため外注管理が可能な委託縫製工場を増やした」という。「外注先を本社と一体管理しており、顧客には外注先をオープンにしている」。

また委託加工型から脱却し、FOB納品で納入単価を決める方式を増やしている。「一貫型の方が納品スピードが上がり、品質管理も行き届き、しかもトータルコストも安い」と訴求している。

欧米日3市場を中心に高級婦人服を製造しているアパレルメーカー、蘇州マッコニーは、素材とサンプルの提案、加工の内製化、FOB(本船渡し価格)での取り組み推進など、新たなビジネスモデル構築を進めている。欧米などの大手ファッション企業ブランドとアパレル生産が事業の中心で、納期や生産管理、デリバリーで最適な生産機能を顧客に提供する。

同社はアパレル生産グループ、マッコニーホールディングス(東京、曾藝文社長)の主力生産拠点。13年末には旧四国フーイング傘下の上海青菱高級時装、上海森山制衣、四国時装の3社を買収した。その後、上海森山制衣と四国時装を合併。現在は日本向け生産主拠点として上海青菱時装、四国時装の二つを系列工場としている。

蘇州マッコニーは、欧米大手アパレル企業との取り組み型事業を行っている。H&Mの「コス」、マックスマラーの「マックス&CO」に続いて、米国のネット販売ファッションブランド「エバーレイン」の生産量を増やしている。また、中国北京